

北海道胆振東部地震最大震度7を記録 地震に恐怖 停電に後悔

芽高新聞

再刊302号
北海道芽室高等学校
新聞局
河西郡芽室町東めむろ
1条北1丁目6
発行責任者
鈴木 菜々美

「頭をおおう」避難訓練活きる

9月6日に起きた北海道胆振東部地震。停電の被害で生活機能がストップし、芽室高校は2日間臨時休校となった。その時の芽室高生の様子取材した。

芽室高生3人に地震や停電の際、何をしていたか、どう過ごしていたか。そして、すべきだったことを聞いた。

帯広市に住む大橋愛結さん(2A)は「地震が起きた時は熟睡していた。

停電中は勉強!と言いたいところだが一切しないであらうだった。

また、新得町に住む大西杏実さん(2B)は「地震が起きたとき、寝ていたけれどびっくりして起きた。停電中は車の中で

充電したり、テレビを見たり、外に出て星を眺めたりしていました。

西帯広方面に住む戸塚智恵さん(1C)は「地震の際は頭を覆い、じっとしていた。揺れがおさまった後は、すぐ使える

きんぐ
きんぐ
きんぐ

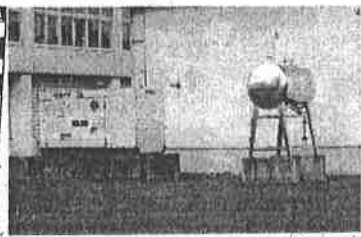


2Cの荒井拓斗です。にやがいを感ずります。12月24日生まれのお型。芽室は明るくていい雰囲気。趣味は特撮を見ること。気の学校だと思つていま部活はサッカー部で相手。これからはもうしくからボールを取れたとき、お願いします。

懐中電灯を探した。停電後はラジオで情報を集めたり、明るくなつてからはコンビニエンスストアに食料を買いに行った」と話した。

全員がすべきだったこととして挙げたのは、「スマートフォン・モバイルバッテリーの充電、懐中電灯の準備」だった。

芽室高校の防災対策



地震が起きた直後から、校長、教頭、事務長は校内にて点検等を行った。なお、芽室は避難所の機能が、飲料水などは屋上の高架水槽から水を流し、対応できる。毛布や食料を校内に常備するか否かは芽室町役場と検討中とのこと。(森)

局説 災害と正しい情報

今回の胆振東部地震は、震災だけではなく道内全域でのブラックアウトも起こった。これにより一時的だが、北海道全土が停電した。公共施設で携帯電話の充電をするために並ぶ人達や、食べ物や電池がほとんど消費されたコンビニエンスストアなどが見られ、多くの人が列をなした。いかに私達は電気や便利さに慣れすぎていたのだろうか。

今回のことを踏まえ、普段から電池、食料などの備えが大事だ。そしてSNSでは「震度7が2日後に起こる」「断水が起こる」など数々のデマが流れた。

どれが正しい情報なのか、誤った情報なのか。これから私達は情報を発信者がどこなのかを探り、取捨選択する力が求められるだろう。

昨
ぶ
バ
イ
83

9月6日(木)、震災が起きた日、私はテスト勉強のために早起きをした。重いまぶたをこすりながら机に向かった。いざ勉強を始めようとした時、私はふと違和感を覚えた。手元のライトが付かなかったのである。その時は「まあ、いいか」と思った。

時間が経つうちにこの状況に疑問を覚えた。何故だろうと考えているとピロンと携帯の通知音がなった。そこには臨時休校の文字。疑問に思った私は母の元へ向かい話を聞くと、昨日地震が起これ、全道が停電になったらしい。

何も知らなかった私はその時熟睡していたことを知った。「今後、私きつと何が起ころうと寝ていくだろう」位の落ち着き(良く言えば)を今後も活かしたい。(鈴木菜)

編集後記

今回の地震を機に、防災グッズを揃えてみてはどうでしょうか。(相川)

局長 鈴木菜々美(2D)
副局長 森 仁美(2A)
編集長 相川 愛実(2B)

根元 七穂(2A)
高砂 萌衣(2B)
鈴木 麻央(2C)

五十嵐千歳(1C)
小川 結衣(1C)
石森由香利
顧問 鶴身 幸一